

短時間見学コース（約 35 分）

【コース】

⑤ → ① → ② → ④
 → ② → 畑谷城跡碑
 → ⑮ → ⑭ → ⑪ → ⑫
 → ⑭ → ⑮
 → 畑谷城跡碑 → ⑤

横の移動を防ぐ豎堀

土塁を高く盛り上げ
尖り森からの見通しを防ぐ

東部大空堀

江口公の墓と
畑谷城 400 年
記念碑

畑谷城
登り口

長松寺

首洗い池

ごへえ宿
(案内・休憩所)

主郭下を4分の3周
廻る空堀

館山（主郭）

（標高 549m）

江口五兵衛光清公
顕彰碑

虎口

空堀と二重堀

西側からの侵入を防ぐ
ため二重堀になっている

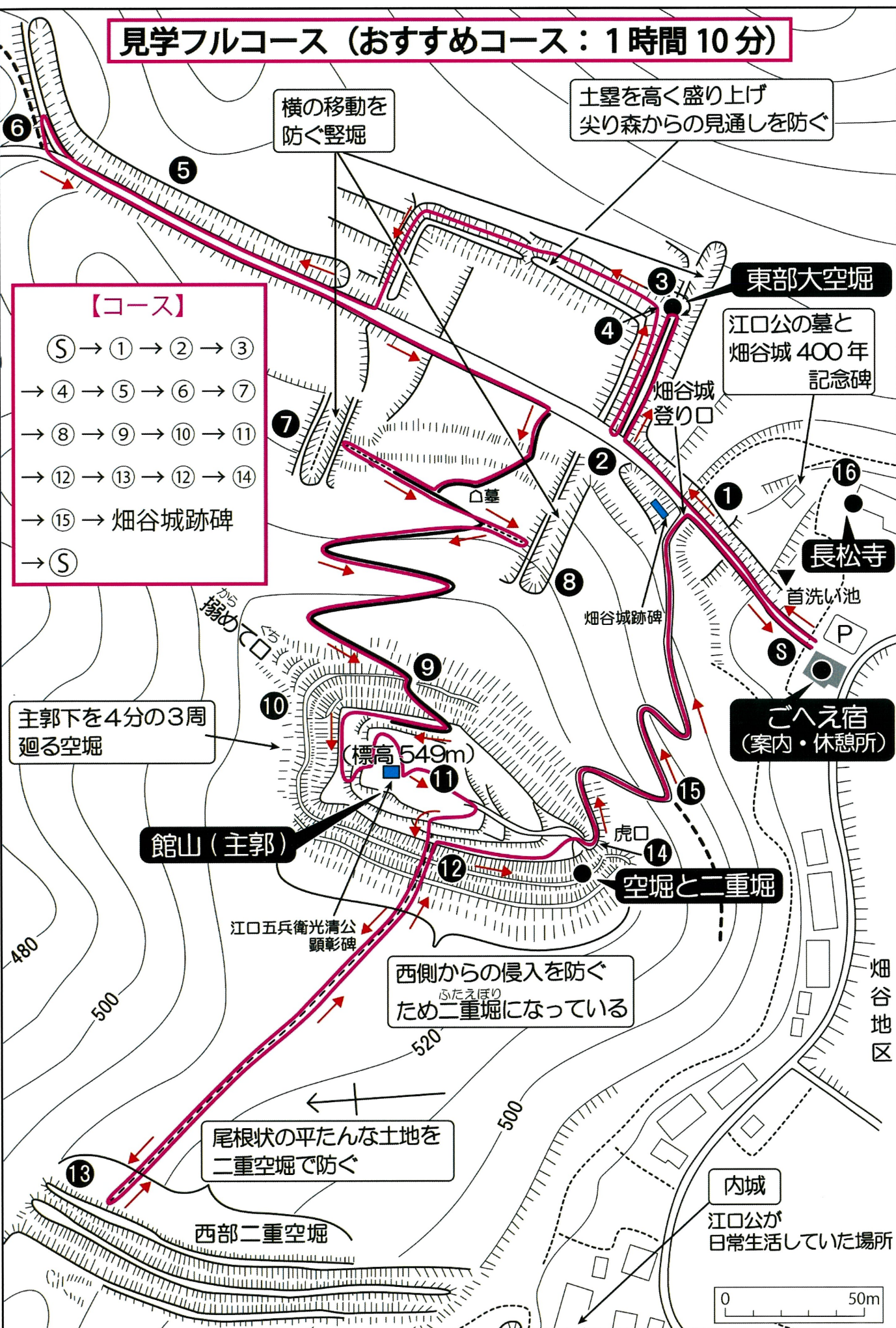
畑谷地区

0 50m

① 登り坂の道を進むと、すぐ右脇に小さな三角形の首洗い池が見られます。首実検のため討ち取った武将の首を洗った池と伝えられています。畑谷城攻防戦では最上勢は畑谷城主江口五兵衛光清（えぐちごひょうえあききよ）をはじめ500余人が討ち死にしました。登り坂の右脇（東側）に空堀（「からぼり」、水のない堀）の堅堀（幅11m）（「たてぼり」、斜面に掘られた堀）が明瞭に見られ、道に沿って伸びています。畑谷城跡碑を過ぎたあたりから、登り坂の左脇（西側）にも堅堀の痕跡が見られます。登り坂の道が土塁（「どるい」、敵の侵入を防ぐため築かれた堤防状のもの）であり、それを挟んで両脇が堅堀となっており、東側からの敵の攻撃に対し構築されています。畑谷城跡碑の所から左に曲がる道が主郭（「しゅかく」、近世城郭の本丸をいう）にダイレクトに通じる道です。

- ② 坂道を登り上げた所で、道の左右が壁状に土塁となっており、道の部分だけが空いており門があったと考えられています。右に曲がると東部大空堀に、左に曲がると主郭（本丸）のある館山の斜面へ伸びる堅堀があります。
- ③ 東部大空堀と登り坂右脇の堅堀が右に折れて尖り森（とがりもり）斜面へ伸びる堅堀に挟まれた間の土塁の上を東に進むと、東部大空堀の深さと大規模（深さ6m、幅12m）さ、尖り森斜面に掘られた堅堀の深さ（深さ8m）と大規模さを実感できます。尖り森斜面に伸びる堅堀は薬研堀（「やげんぼり」、堀の断面がV字形）です。
- ④ ③から引き返し東部大空堀の堀の中を進みます。東部大空堀（横堀）では、空堀を掘った土を西側に土盛りし高さ7mの大規模な土塁を築き、空堀を挟んだ尖り森斜面端の高さより高く構築されています。堀の大規模さ（幅12m）と土塁の高さが実感できます。東部大空堀はカタカナの「コ」の字形になっており、尖り森方面からの攻撃に対してきわめて堅固に構築されています。これだけの規模の空堀と土塁を築いたにも関わらず、軍記物によれば攻めあぐんだ上杉軍は前田慶次郎率いる鉄砲隊300を尖り森に上げ、散々射かけて崩し攻め込んだとあります。
- ⑤ 東部大空堀の北側袖空堀を抜け右に道沿いに進むと右側（東側）に横堀（空堀）が北に伸びています。道の左側（西側）も低くなっており、道が土塁（上が削平）であり、尖り森方面からの敵の攻撃に対して構築されています。
- ⑥ 道が左（西側）に曲がる手前あたりから道の右脇（東側）に土塁が明瞭に見られ、かなりの高さとなっています。また土塁の陰に横堀（よこぼり）（空堀）が明瞭に見られます。土塁と横堀（空堀）は右に曲がって東に向かって伸びています。尚、左に曲がる道（築沢への道）は明治に開かれた道で、右に曲がる道が江戸時代以前の道です。
- ⑦ ⑥から道を引き返して直進（南進）し、東部大空堀の北側袖入口を通り過ぎてさらに直進すると、主郭（本丸）へ登る道の入口があります。そこから右（西側）に曲がり、館山に向い緩やかに登り墓の前を進み、丁字路を右（北側）に曲がって下ると、まもなく土塁に突き当たります。その陰に館山中腹近くまで伸びる薬研堀の堅堀（幅9.5m、深さ7m）があります。コの字形の東部大空堀の北側袖空堀の延長上にあります。
- ⑧ ⑦から道を引き返し、丁字路を通り過ぎて登り道（主郭へ登る道）をまっすぐ登って行くと、まもなく右に曲がる（屈曲する）角があり、そこを曲がらずに直進すると、すぐ土塁に突き当たります。②から館山中腹まで伸びる土塁です。その陰に薬研堀の堅堀があります。コの字形の東部大空堀の南側袖空堀の延長上にあります。⑦の堅堀よりは浅いが、堀の長さは長く、館山の中腹まで伸びています。
- ⑨ ⑧から道を引き返し、曲がり角から登り道（主郭へ登る道）を登って行き、つづら折りの道を進むと、主郭（本丸）直下の横堀（薬研堀の空堀）があります。主郭直下の横堀は南側を除き主郭直下を4分の3周回っています。現在空堀は浅く幅も狭い堀ですが、かなり埋まったとみられます。堀を掘った土を堀の東側に盛り上げて土塁を構築しています。土塁下には道があり、攻めてきた敵を柵が立てられた（推測）土塁で待ち構えて弓や鉄砲等で攻撃（横矢がかり）できるようになっています。道の所だけ土塁がないことから、そこに木戸の門があったとみられます。また道の所だけ空堀が掘られていないことから、その部分が土橋（どばし）となっていました。
- ⑩ 主郭（本丸）の東北角から⑥に向って尾根が伸びていますが、主郭直下の横堀（空堀）がこの所だけ二重になり堀切（ほりきり）となって尾根筋を断ち切っています。北側の下に見える集落が築沢で、築沢樋があります。
- ⑪ 主郭（本丸）は南北30m東西24mの方形であり広くありません。城主や家臣の屋敷は畑谷城南麓の「内城」あたりにあり、普段はそこに住いし、非常時になると主郭に立て籠もりました。主郭には掘立柱建物などの建物があつたと推測されます。主郭には畑谷城主の「江口光清公之碑」が建てられています。討死した江口五兵衛光清や城兵をしのび三百回忌の記念として明治32年（1899年）に建てられたものです。その左に2000年に建てられた「畑谷合戦四百年碑」があり、一番左には「旅人よゆきて伝えよ最上のために戦いたおれし者を」と刻まれたモニュメントがあります。鈴木和吉氏の『山形合戦』より引用した言葉です。軍記物によると畑谷合戦では上杉軍の討死者数も200余人（又は150人）に及んだことから、この戦いで最上武士の手強さを上杉勢にインパクトを与えたとみられます。主郭直下には常曲輪（「おびぐるわ」、常状の細長い平場）が廻っています。また主郭の西側から南側などには段々に数段の曲輪（「くるわ」、区画された平坦な区域）が見られます。
- ⑫ 主郭（本丸）直下の横堀は西側で二重横堀になっており、上から見ると断面が「W」の字の形に見えます。現在は横堀と横堀の間に低い盛り上がりが見られ、両横堀（薬研堀）とも浅く見えますが、当時は深かったとみられます。西側から攻めてきた敵が横堀と横堀の間の壁により動きが止まることから、主郭下の曲輪縁に立てられた柵（推測）から弓矢や鉄砲で狙い撃ちできるようになっています。またW字形の二重横堀にしたことでV字形の堀より西側土塁からの堀幅（幅15m）が広がっています。さらに堀を掘った土を二重横堀の西側壁に土塁として盛り上げ、西側から見ると切岸（「きりぎし」、人工の崖）のような土塁の高さを作り出しています。主郭直下を4分の3周回っている横堀の主郭側の壁は急な切岸となっており、高さのある鋭い切岸と横堀が一体となっています。
- ⑬ 主郭（本丸）から西に向って平坦な尾根が伸びており、主郭から150mあたりに西部二重堀があります。V字形（薬研堀）の二本の空堀（幅6～7m、深さ4～5m）が平行に、堀切（尾根筋を断ち切る堀）から堅堀に連続し、「内城」にある屋敷裏まで約200m下っております。このような多重堀は、最上領の境目にある城館にみられる特徴的な空堀です。畑谷城の西部二重堀はやや規模が大きい堀切から長い堅堀に連続する特徴的な空堀で、慶長出羽合戦の近い時期に造られた堀とみられています。二本の空堀の間と空堀の壁上には柵があつた（推測）とみられ、敵勢にとって城兵が待ち構えるこの二重堀を突破することは極めて大変だったとみられます。
- ⑭ 主郭下の西南角に虎口（「こぐち」、防御された出入口）があり、残りもよく明瞭に見られます。虎口は外柵形（「そとますがた」、霞城公園の山形城東大手門は内柵形になっている）になっており、柵形虎口（ますがたこぐち）には門がありました。虎口の所では大手道はV字に屈曲しており、虎口や虎口脇の土塁（上には柵があつたと推測）で待ち構えて侵入してくる敵に弓や鉄砲等で攻撃（横矢がかり）できるようになっています。
- ⑮ 虎口から下っていくと2曲り目角から右（西方向）に細い道が分かれています。この道は城主や家臣の屋敷があつた「内城」に通じる道です。おそらくこの道が大手道であつたとみられます。内城の周辺には御所清水（ごしよすず）や御清水（おすず）という湧き水の水場もあります。2曲り目角と畑谷城碑の間の道は、主郭にある「江口光清公之碑」を建てる時（明治32年）に開かれたと伝えられています。
- ⑯ 長松寺左脇に江口五兵衛光清公のお墓があります。万年堂の古い墓が元々のお墓（「矢口」と刻まれてあり疑問も）ですが、江口五兵衛光清公の墓地と言われている所が6ヶ所以上あり、実際どこに葬られたかは不明です。

見学フルコース（おすすめコース：1時間10分）



主要ポイント短時間コース（55分）

